しばたしりつ ごめんまちようちえん

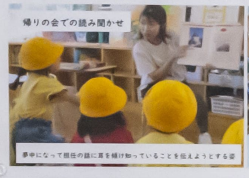
新発田市立御免町幼稚園

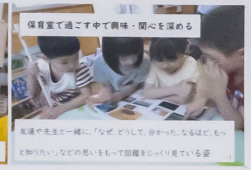
（新潟県）

子どもたちが主体的に取り組む教育活動の中心とした読書活動について（概要）

当園の子どもたちや保護者は絵本や図鑑が大好きである。これは、子どもたちが主体的に取り組む教育活動の中心に読書活動を位置づけていることが効果として表れていると思われる。

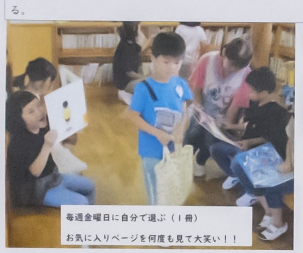
子どもたちは、園や家庭での読み聞かせを通して、想像する楽しみと出会ったり、皆で同じ世界を共有しながら心を通わせ一体感を味わったりしている。また、興味・関心に応じた園での様々な遊びや活動の中で物語の世界に浸りながら主体的に取り組んでいる。





「国文庫について」（昭和42年に国文庫開設）

絵本が大好きな子どもになってほしいと願い、毎日、読み聞かせを行っている。たくさんの絵本と出会わせ、子どもの豊かな感性や表現力、創造力を育むよう努めている。



絵本ファイルと一緒に持ち帰り、家庭で読み聞かせを行ってもらい親子で絵本の世界や触れ合いを楽しんでもらう。

絵本から広がるごっこ遊びや劇遊び

学級文庫の絵本コーナーは毎月、子どもたちの発達や興味・関心、季節に応じて提示する絵本の選定をし、絵本の入れ替えを行い、いろいろな絵本に出会う機会にしている。大好きな絵本を繰り返し見たり、読み聞かせをしたりする中で、語彙力や表現力を育んでいる。

保育室の絵本コーナーで様々な絵本と出会う

～月初め絵本の入れ替え～

どんな絵本があるか興味津々の子どもたち。

～月刊絵本から広がるお店屋さんごっこ～

自分の体験と重ね、お寿司屋さんごっこを開始。保護者を招待して楽しむ。

～飼育物や自然物の観察コーナー

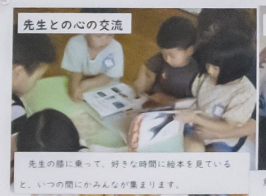
保育室のコーナーにあるものに、より興味をもって自ら調べられるように絵本を置く。

危険生物図鑑
大のお気に入り

お家ごっこをしながら図鑑を仲良く見る。

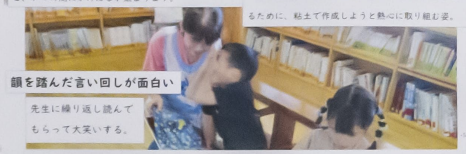
「えーーっ
リスがかじった？！」

松ぼっくりを実際に置き、後日、子どもたちと森へ探しに行きました。



先生の膝に乗って、好きな時間に絵本を見ていると、いつの間にかみんなが集まります。

魚の図鑑を見ながら図鑑に載っているものを再現するために、粘土で作成しようと熱心に取り組む姿。



先生に繰り返し読んでもらって大笑いする。

～お菓子の家パーティー大成功

（興味・関心を実現させる活動）～

ウエハースや様々なチョコレートのお菓子で、家を作ってある月刊絵本がプラスで取り組いになるなどお楽しみ。

「こんなの作ってみたい！」という子どもたちの夢がお菓子パーティーをした。

絵本に載っているお菓子を再現し、チョコやいろいろ作ってみたい、家の屋根が一つは、家など思い思いに作った。

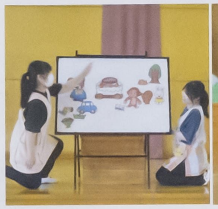
～絵本の世界を存分に味わい登場人物になってごっこ遊びをする姿と運動会でヒーローになって表現遊びを披露する姿～

～絵本「わんぱくだんの宝島」からイメージを広げて～

砂場で遊ぶ子どもたちが、役割分担（水を汲む、スコップで土を掘って海を深くする、土と水をかけながら島を固める）をしながら10日程かけて、ついに大夫な宝島が完成～!!　子ども5人と先生が乗ることができ、自分たちの目標が達成された。友達と一生懸命に力を合わせて完成したので大満足できた。年間を通して同シリーズの絵本に親しみ、大好きな絵本になり子どもたちの心に残る絵本となる。

～園行事で職員による劇や絵本、パネルシアターを通して物語に浸る～

皆で同じ世界を共有する楽しさを味わい、絵本の世界に浸り、ごっこ遊びをしたり登場人物になりきったりして楽しむ経験を重ねている。



～物語の世界をみんなで共有する姿～

誕生会で職員の演じる「大きなかぶ」に参加して一緒に楽しんだ後、自分たちでも「やってみたい」と言い好きな役になって演じて楽しむ。

～掲示版の活用～

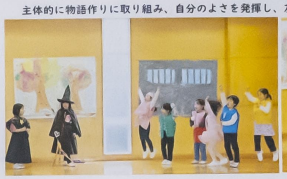
先生たちのいろいろなジャンルの本の紹介や季節毎の装飾があることで、職員や保護者同士で会話し、交流を深めることにつながった。

「地域における施設訪問について」

年1回年長組が園外保育で新発田市出身の挿絵画家蕗谷虹児記念館の訪問を行っている。様々な作品に触れる中で創造力や情操を育み、新たな世界に興味を抱き、関心を広げる豊かな機会を作っている。

蕗谷虹児記念館

主体的に物語作りに取り組み、自分のよさを発揮し、友達と協同して発表した子どもたち



～園でのたくさんの読み聞かせの経験から自分たちで考えた物語を絵本にしたり、発表会で演じたり～

友達の話にわくわくやどきどきを感じたり、想像の世界に思いを巡らせたりしながらお話作りを楽しんだ。

出来上がったお話は、劇にして園行事で発表した。

―クラスで一体感を感じながらやり遂げた達成感を味わう―

「親子文庫と保護者による絵本の読み聞かせについて」

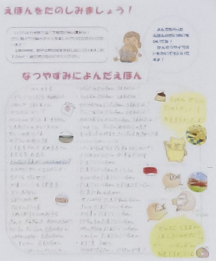
親子文庫は「心豊かな子どもに育ってほしい」「親子の絆を深めたい」という願いから始まった。より多くのよい絵本と出会い、お家の方から読んでもらう時間を大切にすることで、親子一緒にたくさんのことを感じ、「大好きな本」が一冊でも多く増えることを願い設置された。

親子文庫年間活動表

	月と活動内容
5月	・貸し出しファイル作成 ・貸し出し便り発行 ・掲示板装飾 ・絵本の整理、清掃 ・五園の季節本の紹介
6月	・新刊の注文と貸し出し、紹介
7月	夏休みの貸し出し案内便り発行
10月	・先生たちに「ぜんぜいの○○なぁ本」の記入依頼と掲示 ・掲示板装飾
12月	・絵本の整理、清掃 ・冬休みの貸し出し案内便りの発行
2月	・新園長への引継ぎ
3月	・今年度の「貸し出し終了の案内」発行 ・絵本の整理、清掃

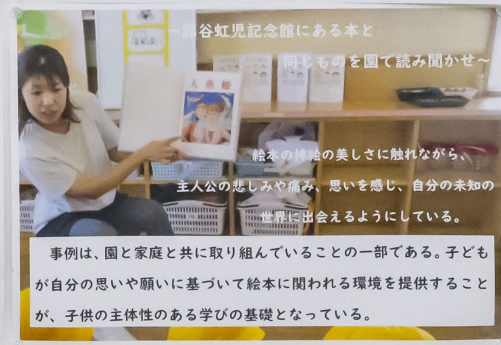
～保護者ボランティアによる絵本の読み聞かせ～

保護者に「この絵本は、私が幼稚園のとき、お母さんに読んでもらったものなの」と言って読んでいただいた。落ち着いた雰囲気の中で、先生も子どもたちと一緒に聞いてお話の世界に浸って楽しんでいる。毎回、好評で、園にない絵本に出会ったり、長いお話に引き込まれたりしている。



～夏休みに読んだ本と貸し出し～

1回の利用で7冊まで貸し出しを行っている。毎日、利用者がたくさんおり、読んでもらった本を裏休みカードに記入してもらった。いつもより実施で通ごで時間が長い夏休みに親子で沢山本タイムを楽しむことができた。



事例は、園と家庭と共に取り組んでいることの一部である。子どもが自分の思いや願いに基づいて絵本に関われる環境を提供することが、子供の主体性のある学びの基礎となっている。